

# 2017年度 決算報告

法人名：社会福祉法人みなと福祉会 (自)平成29年4月1日 (至)平成30年3月31日

## 資金収支内訳表

(単位：円)

勘定科目		金額
事業活動による収支	収入	
	就労支援事業収入	43,908,297
	障害福祉サービス等事業収入	823,305,738
	借入金利息補助金収入	1,929,111
	経常経費寄附金収入	1,548,378
	受取利息配当金収入	5,485
	その他の収入	13,514,627
	事業活動収入計	884,211,636
支出	人件費支出	632,455,287
	事業費支出	71,427,304
	事務費支出	96,739,154
	就労支援事業支出	57,481,327
	支払利息支出	4,069,370
	事業活動支出計	862,172,442
	事業活動資金収支差額	22,039,194
	施設整備等による収支	収入
施設整備等補助金収入		85,101,814
施設整備等寄附金収入		27,412,200
設備資金借入金収入		356,500,000
固定資産売却収入		37,120
その他の施設整備等による収入		3,500,000
施設整備等収入計		472,551,134
支出		
設備資金借入金元金償還支出	23,688,000	
固定資産取得支出	570,866,788	
その他の施設整備等による支出	0	
施設整備等支出計	594,554,788	
施設整備等資金収支差額	-122,003,654	
その他活動収支	収入	
	積立資産取崩収入	1,376,400
	拠点区分間繰入金収入	0
	その他の活動収入計	1,376,400
	支出	
	長期前払費用支出	0
	積立資産支出	10,835,079
	拠点区分間繰入金支出	0
その他の活動支出計	10,835,079	
その他の活動資金収支差額	-9,458,679	
当期資金収支差額合計	-109,423,139	

前期末支払資金残高	515,335,844
当期末支払資金残高	405,912,705

## 事業活動内訳表

(単位：円)

勘定科目		金額
サービス活動増減の部	収益	
	就労支援事業収益	43,908,297
	障害福祉サービス等事業収益	823,305,738
	経常経費寄附金収益	1,548,378
	その他の収益	2
	サービス活動収益計	868,762,415
	費用	
	人件費	641,884,766
	事業費	71,427,304
	事務費	95,649,968
就労支援事業費用	61,570,267	
減価償却費	32,703,741	
国庫補助金等特別積立金取崩額	-18,931,797	
徴収不能引当金繰入	-3,035	
サービス活動費用計	884,301,214	
サービス活動増減差額	-15,538,799	
活動外増減の部	収益	
	借入金利息補助金収益	1,929,111
	受取利息配当金収益	5,485
	その他のサービス活動外収益	13,514,627
	サービス活動外収益計	15,449,223
	費用	
支払利息	4,069,370	
サービス活動外費用計	4,069,370	
サービス活動外増減差額	11,379,853	
経常増減差額	-4,158,946	
特別増減の部	収益	
	施設整備等補助金収益	85,101,814
	施設整備等寄附金収益	27,412,200
	固定資産売却益	29,998
	その他の特別収益	3,500,000
	特別収益計	116,044,012
	費用	
	基本金組入額	27,412,200
	固定資産売却損・処分損	553,242
	国庫補助金等特別積立金積立額	85,151,814
特別費用計	113,117,256	
特別増減差額	2,926,756	
当期活動増減差額	-1,232,190	
繰越増減の部	前期繰越活動増減差額	655,465,723
	当期末繰越活動増減差額	654,233,533
	基本金取崩額	0
	その他の積立金取崩額	0
	その他の積立金積立額	4,272,000
次期繰越活動増減差額	649,961,533	

## 貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位：円)

勘定科目	金額
流動資産	531,658,583
固定資産	1,498,997,210
基本財産	653,090,700
その他の固定資産	845,906,510
土地	173,867,192
建物	520,252,667
構築物	44,055,211
機械及び装置	2,769,040
車輛運搬具	10,090,608
その他の固定資産	94,871,792
資産の部合計	2,030,655,793

勘定科目	金額
流動負債	173,898,475
固定負債	680,758,717
負債の部合計	854,657,192
基本金	101,631,620
国庫補助金等特別積立金	406,905,239
その他の積立金	17,500,209
次期繰越活動増減差額	649,961,533
(うち当期活動増減差額)	-1,232,190
純資産の部合計	1,175,998,601
負債及び純資産の部合計	2,030,655,793

# 第41次きょうざれん国会請願署名 ご協力ありがとうございました。

5月24日に、みなと福祉会からの代表として、利用者4名、家族1名、職員3名の合計8名で、きょうざれんの第41次国会請願行動に参加してきました。

まず、参議院会館の講堂に集まろうちあわせを行ない、その後グループに分かれて国会議員の部屋を訪問しました。議員の方は、不在でしたが、応接室で、秘書の方に私達の訴えを聞いていただきました。利用者のみなさんは、自分の名刺をお渡しして、「給料がもっとほしいです」「出かけたくてもヘルパーさんがいなくて困っています。」「募集しても男性職員が来なくて

困っています。」など力強く訴えています。家族の代表の方からは、「この子たちが安心して暮らしていけるようにしてほしい。」と訴えがありました。最後に、みんなが集めてきた署名の束をしつかり手渡してきました。

きょうざれんとして、毎年毎年こうやって運動を積み重ねていくことが大切だと痛感しました。利用者や家族のみなさんの生の声は、政党の枠を超えて、響くことを実感し、力をもらいました。今後、みなさんで力をあわせて訴え、私達の声を国に届けて行きましよう。

(みなとホーム 河辺恵)



## はじめて参加した 伊藤協留さん親子のコメント

(<sup>かなる</sup>協留さん) はじめての体験でいろいろたいへんだったけど、やりたい事のために議員さんや秘書さんに請願行動をおこなう事ができました。

(お母さん) 親の持つ制度への気持や矛盾への意見、不安を秘書さんではありましたが国に対して訴えました。また支援員の待遇改善の必要性に対しても、親の立場から訴えられました。職員と連携した運動の重要性を感じ、もっとさかんにおこなうべきだと感じました。

## 編集後記

今回の特集は、「災害に備えて」でした。作業所では、保存食や飲料などを準備し災害に備えています。業や個人の情報など命の次に大切なものも保管するようにしています。

毎月実施している避難訓練では、グループホームや放課後等デイサービス、本部事務所でもいざという時を想定して、真剣にとりくんでいます。近年の災害の状況からすると、いつ災害がおこっても不思議ではありません。想定を超えた事態を含めて自分のまわりにどのような災害が及ぶかを考え、被害をできるだけ少なくするために、必要な対策はなにかと常に見直していきたいと思えます。

この号を作成しているなかで西日本豪雨災害が発生しました。被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

(柳沼 由美子)

おでかけください

イルカまつり・しおかぜまつり

9/16 (日)

祭

イルカまつり 10:00 - 13:30

業務用ミシンをつかったの「フキン作り体験」やドッキリ、ビックリの大道芸コーナーなど、たのしい企画がもりだくさん。

しおかぜまつり 10:00 - 13:00

作業所開所 20 周年を記念したまつりです。しおかぜ弁当はもちろん、フローズンのフルーツの販売、消防車がやって来て防災講話も行います。

祭 うるじの家まつり 9/23 (日)

10:00 - 13:00

今年もうるじまつりを開催します！前年度までは「田んぼアート」と共同開催でしたが、今回は初の単独開催ということで入念に計画を練っています。ステージ企画や部屋ごとにイベントブースを設けるなど、たくさんの人にうるじ祭りを楽しんでもらいたいと思っています！



# ともに育つ会ニュース

2018年  
夏号

港区障害者(児)とともに育つ会 〒455-0803 港区入場1-114-1 TEL(052)355-8000

## 紡ぎ続けて45年

会長 磯崎 明美

「港区障害者(児)とともに育つ会」は今年11月で45周年を迎えることになりました。

この間、数多くの人に学び、教わり、そして協力を頂いたり、私たちの大きな力になってきました。活動を始めた頃ある人に、「親が学ぶことで、子どもは親が成長しただけ成長し、羽を広げる。」と言われました。

「愛知県障害児の不就学をなくす会」に結集して、「港口曜学校」として、この港区に運動団体として産声をあげ、以来45年、養護学校義務制、地域に特別支援学校を誘致、特別支援学級設置、障害児のための相談センター開設などの運動をすすめてきました。

その後、それらの任意の団体をまとめ、「港区障害者(児)を育てる会」とし、その後「港区障害者(児)とともに育つ会」と改名しました。その間にも卒業後の居場所、働く場所づくりをすすめ、無認可のあと、法人格を取得し、イルカ作業所、しおかぜ作業所、うろじの家、わーくす昭和橋、あしたの家、児童デイサービスと障害児「ディケア」のさまざまなグループホームと、「みなと福祉会」と一体となって、障害児者のための施設づくりに邁進してきました。

その他、地域とのつながりも、ふれあい広

場や、障害者自立支援連絡協議会、港生涯学習センター「文化祭」の役員を担うなど、かわりを深く持つてきました。

もちろん活動団体として中央とのかかわりを持つ「愛知県障害者(児)の生活と権利を守る連絡協議会」、中央「障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会」に加盟し、作業所の方も「きょうされん愛知支部」に加盟しました。私自身、副会長、副支部長を長きに渡って歴任してまいりました。中でも生涯学習センターでは、10年以上に渡って講座の協力をする中で、親や自分自身も成長させてもらった事に感謝しています。

この長い年月、多くの方の協力があった事は言うまでもありませんが、一方多くのボランティアの「力」があった事も記さないわけにはいきません。今、全国各地でリーダーとして活躍している人の名前を聞く時、私共のボランティアを学生の頃していてくれた人だと、感動する時が多くあります。

もちろん我が「みなと福祉会」の職員として中心的役割を担っている多くの人は、元ボランティアの学生でした。私たちはこれまで10年毎の節目に色々なイベントを開催してきました。1995年1月17日、阪神淡路大震災の前日にも、港区文化小劇場で25周年事業リサイタルを開催し、取材に来たNHKテレビが17日に放送予定でした。ところがその日の朝、名古屋でも震度5という、放送された神戸のあの場面は私も生まれて経験のないも

のでした。NHKから放送中止の連絡を頂いた時、朝の名古屋の状況でも察していました。そして45年運動してきた中で、一番の衝撃は「一昨年の相模原事件」です。中味を多く語ることができないものです。私の今までの運動は「この子たちを、そして家族を守る闘い」でした。根底から崩れる思いをしましたが、私たちの中でゆるぎないものがあるので、子どもたち、多くの仲間には不安を払拭するよう、これからも活動あるのみです。

そして最後に、そんな素敵な仲間たちの25年に及ぶ「成人式」に寄せられた文章を45周年記念としてまとめました。

「あなたが「幸せ」になることが、私たちの願い、お母さんといえることが「幸せ」と言ったあなたを、私たちは悲しませないよう、平和な日本になることを誓って、あなたたちの人権を守るよう、みんなの力を合わせていこう。」

いっどこで、どんな風に生まれても、みんな「幸せ」になる資格を持っていると日本の憲法はうたっているのだから。

